第６学年　国語科学習指導案

単元名　言葉について調べて考えよう　　教材名　「言葉は動く」

１　単元の目標

○　時代や世代による言葉の変化や違いに興味をもち，調べようとしている。【関】

○　言葉には，時代や世代により変化や違いがあることをとらえ，自分の考えを広げることができる。【読】

○　時代や世代による言葉の変化や違いに気付いている。【言】

２　指導と評価の計画

時間	○ねらい　・学習活動	評価の観点 関	 読	 言	学習活動における具体の評価規準 （　　）は評価方法
（一次）	言葉について調べ、「言葉カード」を作り交流する。 ○「言葉は動く」を読み，時代や世代による言葉の変化や違いに興味をもつ。				
1	・「言葉は動く」の初発の感想を書き，学習課題をもつ。	○			・変化してきた言葉に関心をもち，自分なりの課題をもとうとしている。（ノート・発言）
（二次）	○「言葉は変化し，入れかわる」ということを読み取り, 言葉についての自分の考えを広げる。				
2	・意味段落１を例示された言葉を調べながら読むことで，言葉の変化に気付く。			○	・例示された言葉を調べながら読むことで，言葉の変化に気付いている。（ノート・発言）
3	・意味段落２・３を例示された言葉を調べながら読むことで，言葉の変化に気付く。			○	・例示された言葉を調べながら読むことで，言葉の変化に気付いている。（ノート・発言）
4	・意味段落４から筆者の考えを読み取り，自分の考えをまとめる。		○		・筆者の考えをもとに，言葉の変化についての自分の考えをまとめている。（ノート・発言）
（三次）	○時代や世代により使われなくなっている言葉について調べ,「言葉カード」を作り，交流する。				
5	・時代や世代により使われなくなっている言葉について調べる。	○			・時代や世代により使われなくなっている言葉について調べている。（ノート）
6	・調べた言葉について，時代や世代による変化や違いがあることを自分の言葉で説明する。			○	・調べた言葉については，時代や世代による変化や違いがあることを自分の言葉で説明することができている。（ノート・発言）
7	・学習を振り返り，言葉には，時代や世代により変化や違いがあることをとらえ，自分の考えを広げる。		○		・学習を振り返り，言葉には，時代や世代により変化や違いがあることをとらえ，自分の考えを広げている。（ノート・発言）

3　単元設定の理由

○　本単元は，言葉と生活との関連を中心とするもので，国語学習のみならず小学校生活で経験した言語体験の総まとめともいえる単元である。ここでは，本文に例示されている言葉やそれらに類似した言葉などを探したり調べたりしながら，時代・世代による言葉に違いや変化について考える。また言葉そのものについて深く考え，言葉を大切にしようとする態度を養い，今後の自己の言語生活に生かそうとするものである。

教材文「言葉は動く」は，小学校で学習する説明的な文章，および言葉そのものについて学習する言語単元の最終である。しかし説明的な文章ではあるが，一般的な構成ではなく，文章全体に対する「問い」がなく，４つの意味段落で構成されている。それらの意味段落は，一行空きで分かれており，文章構成は分かりやすいものとなっている。教材文では，時代・世代による言葉の違いや変化について例を挙げながら，言葉は変化するものである。だが，だからといって，使われなくなっていった言葉を，古い言葉だということだけで済ませてほしくはないという筆者の願いが込められた文章となっている。また，児童の身の回りには，インターネットやブログなどを使っての顔の見えないつながりや，不特定多数の情報の共有化といった，高度情報化社会が渦巻いている。こうした時代だからこそ，自分たちが使っている言葉を見直すことに大きな意味がある。そして，その言葉がかつてはどのように表現されていたものなのか,どのような意味で使われていたものなのかなど,言葉の移り変わりと，それを使っている自分たちの言語生活を，本教材をもとに考えさせていきたい。

○

児童の実態については，省略しています。

○　指導にあたっては，本単元は説明的文章を扱う単元ではあるが，文章構成よりも内容に目を向けさせ，自分たちが普段使う「言葉」のあり方について考えさせることを中心に置くようにした。

第一次では,「言葉は動く」を読み，初発の感想をもとに学習課題を立てる。初発の感想では，初めて知って驚いたこと，納得できたこと，もっと知りたくなったことなどの観点を示すことで，今後の学習課題を立てやすくする。そして，学習課題を立てることで，教材文を読み深めることで言葉についての関心を高めていけるようにする。

第二次では，意味段落１～３で「暮らしの変化による言葉の変化」「長い時間の経過による物事の意味の変化による言葉の変化」「長い時間の経過による気持ちを表す言葉の変化」について，考えていく。読み取りの際には，各段落の要点をまとめながら読むことで,「言葉の変化」の原因を見つけやすくしていく。また，各段落で例示された言葉を調べながら読んでいくことで，筆者の説明に対して自分の考えをもちやすくしていく。身近な例を見つける活動では，国語辞典を使い，意味や用例もきちんと押さえるようにしていく。意味段落４では，筆者の考えを読み取り，自分の考えをまとめていく。初発の感想との違いや言葉についての思いを書くようにすることで,言葉についての自分の考えを深められるようにしていきたい。

第三次では，身近にある時代や世代の違いにより使われなくなっている言葉に着目させ，「言葉カード」にまとめていく。この学習を通して，言葉には，時代や世代により変化や違いがあることを捉えるとともに，言葉に対する自分の考えを広げることができるようにしたい。ここでは，筆者の主張である「使われなくなっていく言葉を，古い言葉だ，というだけ

で済ますことはできないのではないか」という考えをおさえる中で，身近にも使われなくなっている言葉があるのかどうかという課題意識をもたせるようにする。児童の身近にある使われなくなっている言葉には，方言（岡山弁）がある。このことに気付かせ，方言に観点を絞って調べていくようにし，「言葉カード」にまとめる。その際，言葉の意味や使い方，語源についても記入するようにすることで，使われなくなっている言葉についての理解を高められるようにする。そして，できあがった「言葉カード」を相互に読み合うことで，多くの言葉にふれることができるようにする。また，なぜ使われなくなってきているのか理由を考えるようにすることで，言葉には，時代や世代により変化したり違ったりすることがあることを捉え，自分の考えを広げられるようにしたい。これらの活動を通して，言葉への理解を深めていけるようにするとともに，ふるさとの言葉を見つめ直し，大切にしようとする態度を養い，より豊かな言葉を身につけることができるようにしたい。

以上のように，本単元では，指導事項「読むこと　オ」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項　イー(イ)」を受けて,「言葉について調べ,『言葉カード』を作り交流する。」という言語活動を通して，本校の研究主題「主体的に読み，目的に応じて自分の言葉で豊かに表現する子どもの育成」に迫りたい。

4　本時案(第2時)

本時の目標	例示された言葉を調べながら教材文を読むことで，「暮らし方の変化」にともなう言葉の変化に気付くことができる。
準備物	デジタル教科書，国語辞典，こよみ・十二支の絵，衣紋かけの絵

児童の活動の流れ	教師の支援と評価
1　本時のめあてをつかむ。	○本時は，教材文の意味段落１を読み，言葉の変化について考えていくことを確認し，学習の見通しをもつことができるようにする。
言葉の変化について考えよう。	
2　形式段落ごとに読み取る。	○意味段落１は４つの形式段落で書かれていることを確認することで，読みへの意識を高める。 ○形式段落ごとに要点をまとめることで，内容を具体的に読み取れるようにする。 ◆要点がうまくまとめられない児童には，重要だと思う言葉や文を探すように助言する。 ○要点をうまくまとめられている児童を賞賛することで，学習への意欲が高まるようにする。 ○発表時にはデジタル教科書を活用し，重要語句や文を確認しやすくする。
3　例示されている言葉から，言葉の変化を考える。	○こよみや十二支の絵を用意しておくことで，カレンダーとの違いが分かるようにする。 ○「立春」「冬至」などふだんあまり使わない言葉に着目させることで，自分たちの生活に今でも古い言葉が息づいていることを確認する。 ○「生活の変化で言葉が動いた例」と「複合語として使い続けられている例」を考え，言葉の変化の多様性に気付けるようにする。 ◎「衣紋かけ→ハンガー」などと言葉が変わったきっかけを考えるようにすることで，生活の変化に気付けるようにする。 ◆教科書以外の例が思いつかない児童には，今は使われなくなった言葉を例示したり，生活の中で分からなかった言葉を想起したりするように助言する。 ○「複合語として使い続けられている例」は，国語辞典で意味と使い方を調べることで，言葉への意識を高めるようにする。
4　自分の考えをまとめる。	○学習のめあてに対する自分の考えを書くことで，言葉の変化と暮らし方の変化について気付けるようにする。 ○暮らし方の変化だけでなく，複合語として使い続けられている言葉についても書いている児童の文章を紹介することで，筆者の考えに迫れるようにする。 例示された言葉を調べながら読むことで，言葉の変化に気付くことができている。（ノート・発言）
5　次時の学習を知る。	○次時は形式段落２・３を読んでいくことを知らせ，学習活動への見通しをもつことができるようにする。

本時案（第6時）

本時の目標	調べた言葉について，時代や世代による変化や違いがあることを自分の言葉で説明することができる。
準備物	言葉カード

児童の活動の流れ	教師の支援と評価
1　本時の学習について知る。	○調べた感想を問う中で，使われなくなっている方言が思っていたよりもたくさんあったことや知らないものもあったことなどに気付くことができるようにする。 ○本時の活動は何をすればよいかを尋ね，めあてを振り返るとともに，「言葉カード」を作ることを全体で確かめられるようにする。

使われなくなっていっている言葉を集め，「言葉カード」を作り，友達に紹介しよう。

児童の活動の流れ	教師の支援と評価
2　調べた方言を「言葉カード」にまとめ，紹介する。	○まとめ方が分かるように，表側に調べた方言，裏側に意味，語源，使い方というようにまとめ方を例示する。 ○語源については，調べられたものだけでよいことを伝え，必ず記入しなくてもよいことを確認できるようにする。 ◆記入の仕方に戸惑う児童には，記入の仕方を具体的に示したり助言したりすることで，カードのまとめ方が分かるようにする。 ○完成した「言葉カード」をお互いに紹介し合い，使われなくなっている言葉について知る。
3　使われなくなっている理由を考える。	◎方言について，なぜ使われなくなってきているのかを問い，使われなくなっている理由を考えることで，身近な言葉にも時代や世代による変化があることに気付くことができるようにする。 ○変化の理由を説明できるように，「言葉は動く」で学習した三つの変化が理由なのか，それ以外にも変化の理由があるのかを，考える観点として示す。 ○はじめは一人で考え，次に班で意見を出し合い，最後に全体で交流することで，調べた方言が使われなくなっている理由について多面的に考えることができるようにする。 ◆使われなくなった理由を考えにくい児童には，友達の考えを参考にすればよいことを伝え，自分の考えをもつことができるようにする。 調べた言葉について，時代や世代による変化や違いがあることを自分の言葉で説明することができている。　（ノート・発言）
4　本時のまとめをする。	○方言が使われなくなっている理由について，出し合ったことをもとにしながら，考えをまとめることで，学習内容をふり返ることができるようにする。 ○まとめられた児童に内容を発表させることで，自分の考えを膨らませたり参考にしたりできるようにする。
5　次時の活動を知る。	○次時は，学習を振り返り，「言葉は動く」について自分の考えをまとめることを伝え，意欲をつなげられるようにする。